

ネットワーク通信

6号

発行：平成25年10月
幸手市介護福祉課
ネットワーク事務局
☎0480-42-8438

～幸手市高齢者・障害者地域見守り支援ネットワーク～

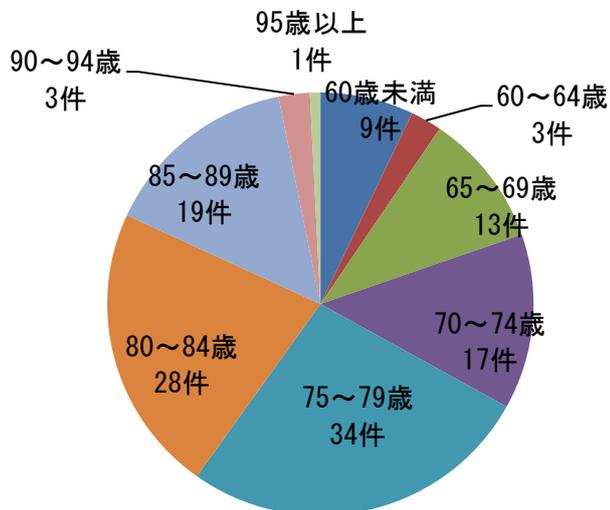
幸手市高齢者・障害者地域見守り支援ネットワーク関係機関の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

このネットワークは、日常生活や日常業務・活動の中で高齢者や障害者をさりげなく見守り、「困りごとを抱えていそうだ」「最近顔色が悪く痩せてきた」「郵便物や新聞がたまっている」など気になる変化や困った状態を早期に発見して必要な支援につなげる取り組みです。

平成24年度 ネットワーク連携連絡実績

平成24年度は、延べ127件(前年比19件増)の連携・連絡を実施することができました。

年代別連携・連絡実績(延べ)



関係機関別実績(延べ件数)

関係機関	件数	割合
介護事業所	11件	8.7%
警察	7件	5.5%
医療機関	34件	26.8%
民生委員	32件	25.2%
市役所内	18件	14.2%
商店など	8件	6.3%
社会福祉協議会(ボランティア含む)	4件	3.1%
区長・地域住民	10件	7.9%
障害福祉サービス事業者	1件	0.8%
その他	2件	1.6%
合計	127件	100%

年代別によると、75歳以上の方の割合が66.9%を占めます。

幸手市の高齢化率(人口における65歳以上の方の占める割合)は、26%を超え、高齢者単身世帯や高齢者のみ世帯がめずらしくない状況になってきています。今後ますますネットワーク活動が重要になります。

気になる高齢者・障がい者の情報は…

【高齢者】

- ◆幸手東地域包括支援センター : ウェルス幸手内
☎0480-53-6151・FAX0480-53-6160
担当地域: 権現堂川・吉田・八代・さかえ・さくら小学校区
- ◆幸手西地域包括支援センター : 西公民館内
☎0480-40-3443・FAX0480-44-0870
担当地域: 幸手・行幸・長倉・上高野小学校区
- ◆幸手市介護福祉課(ネットワーク事務局) : ウェルス幸手内
☎0480-42-8438・FAX0480-40-3008

【障がい者】

- ◆幸手市社会福祉課(障害者虐待防止センター) : ウェルス幸手内
☎0480-42-8435・FAX0480-43-5600



見守りワンポイント「認知症」

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態がおよそ6ヶ月以上継続していることを指します。

認知症は高齢になるほど発症率が高くなりますが、若い人が発症しない訳ではありません。

65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と言います。高齢者に比べて発症率が低いこともあり、まだまだ社会的な理解を得られていないのが現状です。

皆様の日常生活・日常業務のなかで気になる人はいませんか？

参考に「認知症の人と家族の会」作成の認知症早期発見のめやすを掲載します。



公益社団法人

認知症の人と家族の会

ホームページ(<http://www.alzheimer.or.jp/>)より

「認知症早期発見のめやす」は、日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

いくつか思い当たることがあれば、一応専門家に相談してみることがよいでしょう。その結果、何でもなければ安心ですし、他の病気が見つければそれはそれで対応ができます。

どんな病気でもそうですが、認知症も早く見つけて早く対応すれば、本人にとっても家族にとっても、それ以後の生活は大きく変わります。

認知症早期発見のめやす

●もの忘れがひどい

- 1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 2 同じことを何度も言う・問う・する
- 3 しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●判断・理解力が衰える

- 5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 6 新しいことが覚えられない
- 7 話のつじつまが合わない
- 8 テレビ番組の内容が理解できなくなった

●時間・場所がわからない

- 9 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 10 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

- 11 些細なことで怒りっぽくなった
- 12 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 13 自分の失敗を人のせいにする
- 14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●不安感が強い

- 15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 16 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 17 「頭が変になった」と本人が訴える

●意欲がなくなる

- 18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- 20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がり いやがる



認知症についての勉強会などの企画をされる場合、平成 23 年度のネットワーク全体会で実施しました認知症の基礎知識講座を下記のとおり実施していますので、ご活用ください。

認知症の基礎知識講座

幸手市では、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることのできる地域作りを目指して、認知症の基礎知識講座を行っています。この講座を受けていただいた人は、認知症の人やその家族を温かく見守る「認知症サポーター」になることができます。

内 容 認知症の基礎知識(認知症とは何か、認知症の症状とは)
認知症の人への対応や家族の支援等に関する講話

対 象 者 幸手市内在住・在勤・在学の 10 人以上のグループ

会 場 地域の自治会館・集会所、お近くの公民館など
※ 会場予約と使用料はグループにてご負担ください

所 要 時 間 1 時間 30 分程度(アンケートの記入含む)

申し込み・問合せ

予め日程や詳細を打合わせした後、お申込みいただきますので、ご希望の方は1カ月前までに介護福祉課高齢福祉担当(電話 0480-42-8438)へご連絡ください。

「認知症サポーター」は認知症の人と家族の応援者です

認知症サポーターは、なにか特別なことをする人ではありません。認知症を正しく理解してご自分の出来る範囲で活動する応援者です。例えば友人や家族にその知識を伝える、認知症になった人の気持ちを理解するように努めるなど、活動の仕方は人それぞれです。平成 29 年度末までに900万人のサポーターを養成することを目標に、全国でこのような講座が行われています。

※幸手市の認知症基礎知識講座を修了した人には、サポーターの証であるオレンジリングとサポーター証をお渡します。

また、認知症サポーターがいる事業所には、認知症サポーターキャラバンのマスコット「ロバ隊長」のステッカーを差し上げます。

(1 事業所 1 枚、登録制)



サポーターの証
オレンジリング



ロバ隊長ステッカー
寸法：約 275×190mm

ご存知ですか？ 障害者虐待防止センター

虐待によっておびやかされる障害のある人の権利を守るため、平成 24 年 10 月 1 日から「障害者虐待防止法」が施行されました。

この法律では、障害者への虐待を発見した人には、市町村や県へ通報することが義務付けられています。通報の窓口として各市町村に「障害者虐待防止センター」が設置されています。

もしかして
障害者虐待かも・・・？

障害者虐待について
相談したいことがある・・・

こんなときはこちらへご相談ください。

幸手市障害者虐待防止センター（幸手市社会福祉課内）

電話 0480-42-8435 FAX 0480-43-5600

※虐待の通報をした人の個人情報は保護されます。

次のような行為は虐待に当たります

身体的虐待 ● 殴る、蹴るなどの暴行を加える ● 身体を拘束する

性的虐待 ● わいせつな行為をする ● わいせつな行為をさせる

心理的虐待 ● 怒鳴る、悪口を言うなどの暴言 ● 拒絶、差別的な対応

放棄・放任 ● 食事を与えない ● 治療、衛生管理を怠る ● 長時間の放置

経済的虐待 ● 財産を不当に処分する ● 預貯金を意思に反して使用する

被害の悪化を食い止めるためには

障害者虐待による被害の悪化を食い止めるためには、早期の発見が大切です。虐待の有無がはっきりしない状況であっても、「**障害者虐待防止センター**」へご連絡ください。

